フィールド（現場）からの風 ㊽

宮田守男

一生に一度は、と言われた高野山 参拝ができる時代を楽しもう

6月下旬訪れた「高野山」。初めて訪れた時は、50年に1回執り行われる大法会で大混雑した。その時とは異なり、大阪市で開幕した先進国と新興国の20カ国・地域首脳会議（G20サミット）の大規模な交通規制で、高野山は驚く程の静寂な中での参拝になった。

高野山奥の院。空海が今も生きているとされ、毎日2回、御廟に食事が運ばれる1200年絶えることのない神秘的な地だ。高野山のガイドの説明も参拝をより一層充実させた。単なる歴史の紹介だけでなく、参拝等に関する知恵を教えていただいた。昔は、親から子に教え伝えたと話すが参加者の多くが初めて聞く内容だった。仏教界では「御供」と言って「香」・「花」・「灯明」・「水」「飲食」の五つがお供え物の基本だ。特に「香」は、配慮すべきだと話す。ご飯は、炊きたての香りが大切。花も菊だけでは無く、季節の中で香り際立つ花が薦めだと。

参拝する寺社の格式は、建物の筋塀の土塀の壁面の定規筋と呼ばれる白い水平線が引かれた本数。格式の高さにより三本・四本・五本があり、五本が最高。訪れた総本山金剛峰寺は、皇族の御所として用いられ五本だった。神社や寺院の固有の家紋をそれぞれ神紋、寺紋と言い、門に飾られた提灯の紋を知る事で格式が分かるので、知識として得ることも大切だと話す。

奥の院の地蔵菩薩様・不動明王様・観音菩薩様に対する作法。まず水掛け不動様などのお水を掛けて良い「水掛け地蔵」でなく「水向き地蔵」。水を掛けてはいけないと説明の側で、お母さんが顔まで水をかけ続けていて、幼い子供が真剣に水を掛ける姿を見て説明がなければ、私も水を掛けていたのだろうと恥ずかしくなる。この罰当たりの行為が無い様に、伝えて行かなくてはと考えさせられる。開運の為にする作法が、地蔵が嫌がる作法であってはならないとの説明が心に残る。参拝は、時計回りで行い、同じ道を帰ってはいけない事。お墓の写真は慎む事。参拝は、飲酒状況ではダメな事。場所によっては、参拝方法が異なる事など、ガイドから説明を受けることで、参拝がより印象に残った。

昼食は宿坊にて精進料理。近くの「麩善」で購入した生麩まんじゅう「笹巻あんぷ」を参加女性の皆さんに試食していただく。魅力ある食べ物を紹介するのも、二度目の参拝のお返しになったのだろうか。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）

ガイドの説明は、参拝を充実させ再び訪れたいと思わせた